

会 議 録

会議録	令和5年度 山陽小野田市高齢者保健福祉推進会議（第2回）	
開催日時	令和5年10月26日（木）14:00～16:00	
開催場所	保健センター 集団指導室	
出席者	石原克宏委員、伊藤武委員、井上恵子委員、大塚美和子委員、草田和枝委員、永富恵子委員、萩田勝彦委員、萬代聡子委員、堀田慎一郎委員、美濃康之委員、三原豊弘委員、森川繁夫委員、和氣さち委員	
欠席者	上林雅樹委員、江本尋美委員、川野広子委員、坂井久美子委員、土井直子委員、中村聡委員、長谷亮佑委員	委員数 20人 出席者数 13人 欠席者数 7人
事務局	（福祉部高齢福祉課） 福祉部長 吉岡忠司、福祉部次長兼高齢福祉課長 尾山貴子、 高齢福祉課技監兼地域包括支援センター所長 荒川智美、 高齢福祉課長補佐 竹内広明、高齢福祉課主査 篠原紀子、 介護保険係長 見田健治、 地域包括支援センター所長補佐 古谷直美、 高齢福祉係長 藤永一徳、高齢福祉係 蕎麦谷智美	
会議次第	1 部長あいさつ 2 議事（審議事項） （1）第9期山陽小野田市高齢者福祉計画（案）について （2）今後のスケジュールについて 3 その他	

会議要旨	
開会 1 福祉部長 あいさつ 事務局	福祉部長から挨拶を行った。 委員20名の内、11名の出席により、会議が成立したことを報告した。（途中参加含め、最終的に13名出席） 会長が欠席のため、副会長が職務を代理し、挨拶を行った。（後ほど会長は参加）

2 議事	審議事項
	「(1)第9期山陽小野田市高齢者福祉計画(案)について」
《説明》	第9期山陽小野田市高齢者福祉計画(案)、資料1、資料2について、事務局から説明を行った。
《説明》	欠席委員からの意見について、事務局から資料3の説明と回答を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ No3、基本目標1の評価指標について 敬老事業は現在全ての地区で実施されており、指標とするには馴染まないものと判断したため、削除したいと考える。 ○ No5、字句修正について 他の項目と表現の整合をとり、御指摘のとおり修正する。 ○ No6、基本目標2の評価指標について 指標が重複していると判断したため、第二層協議体設置数を評価指標として残し、コーディネーター数は削除したいと考える。 ○ No7、基本目標3の評価指標、令和7年度と令和8年度の「住民運営通いの場設置か所数」について 令和7年度の「設置か所数」は第二次山陽小野田市総合計画に記載している数値としている。令和8年度の「設置か所数」は近年の設置か所数が、現在の計画値を下回っているため、令和7年度と同数としている。 ○ No9、訪問介護と訪問看護の実績減少と、訪問入浴と訪問リハビリの実績増加の要因について それぞれのサービスの増加・減少は、様々な要因が考えられる。委員御指摘のとおり、施設入所も要因のひとつと考えられる。 ○ その他回答しなかった御意見についても、今後の計画策定に当たって参考とさせていただく。
《意見・質疑》 委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の単身世帯が4,111世帯となり、住居の状況で持家の比率が87.5%から考えると、独居で持ち家の高齢者単身世帯が多いと考えられる。 実際に支援が必要な状態になったとき、介護サービスを使うのは当然だが、高齢になっても施設に入らない人が多く、その要因は様々と思う。

事務局	<p>金銭的面で条件に合う施設があれば、入りたいと思う人がいるのではないか。市内には自立した高齢者が楽しんで入所できる施設が少ないので、そのよう施設があってもいいと思う。</p> <p>○ 計画案の※印が付いているものがある。説明が必要な用語は整理して記載してほしい。</p> <p>→ 本日の計画案には付いていないが、最終的に計画に用語解説を付ける予定としている。</p>
委員	<p>○ 近所で起きた事案として、自分の近所で高齢女性が家の外で倒れていた。</p> <p>第一発見者は病院と一緒に通う友人で、本人が病院に来ないので訪問すると、風呂上りの状態で屋外に倒れていた。前日から倒れていたようだが、暖かい時期だったため、亡くなっていなかった。</p> <p>自分は外で作業中だったので、発見者の声を聞いて現場に行ったが、衣類をつけておらず、自分では対処できなかったため、家族に介助を頼み、自分は救急車の手配をした。幸い重症ではなかったが、自宅には帰ることができず、入院が続いている。</p> <p>様々な事案があるが、どのように助けることができるのか、助かるとはどこまでのことを言うのか悩んでいる。</p>
委員	<p>○ 独居の方への対応も重要だが、自宅で介護されている方の苦労について、夫婦だから大丈夫だろうと考えられ、独居の方に焦点が当たりがちなのが気になっている。</p> <p>老々介護で本当に疲労している方は、地域が見守っていきしかないと思う。</p> <p>先ほどの委員の発言にもあったが、周囲にいる方の協力が大切で、市の対応にも限界があると思う。地域や周囲の人が気にかけていくことが大切なことだと思う。</p>
委員 事務局	<p>○ 災害対策について、福祉避難所がどこにあるのか、対象者がどこにあるのか教えてほしい。</p> <p>→ 対象施設は特別養護老人ホームなどが該当する。実際に福祉避難所に避難される事例がない。今後は計画に記載のとおり、必要がある方には適切な避難所で対応できるような体制をとっていきたい。</p>

委員	<p>○ 様々な調査を行い、今後高齢福祉にどのように取り組んでいくのかが理解できた。</p> <p>フレイル予防や権利擁護なども網羅されている。</p> <p>これから具体的なことに移っていくと思うが、市民への周知啓発には取り組んでほしい。特にフレイル予防は、市広報紙や地域交流センターでのスポーツレクリエーション広場などが有効な場になると思う。</p>
委員	<p>○ 多くの課題があつてどれも大事だが、計画の中で山陽小野田市では何が特徴で、何が問題か分かりにくかつたと思う。</p> <p>地域包括ケアシステムが基盤になっていること、地域包括ケアシステムを推進していくため、基本理念を全ての目標に組み込まれていることは良く分かるが、今後どうやっていくのか、このような特徴があるから、具体的にこの事業は力を入れていく、ということが読み取りにくかつた。</p> <p>高齢者のことを考えるのは大切だが、若い人と一緒に高齢者を支えていくことが大切と考えている。</p> <p>例えば、高齢者の健康寿命の延伸のため、フレイル予防に力をいれることも大切だが、高齢者が元気になるためには、若い人との交流など、違う世代との地域づくりや交流の場も大切と思う。</p> <p>高齢者は赤ちゃんの姿や子どもが走り回る様子を見ると元気になる。高齢者だけ、子どもだけで、まちづくりを進めるのではなく、世代間の交流も進めていってほしい。</p> <p>○ アンケートをとるだけでなく、地域住民を巻き込んで意見をもらったり、こういう事業があるのでチャレンジしてみませんかと地域に投げかけたり、小学生の意見、高校生の意見を確認したりするなど、地域に投げかけると大人が思っていない意見が出てきたりする。山陽小野田市の特徴を踏まえて、地域住民を巻き込み、世代間の差を無くしていくことが大切と考えている。</p>
委員 事務局	<p>○ 認知症サポーター養成研修受講者数は、何名が複数回受講されたのか。</p> <p>→ 御指摘のとおり、複数回受講を妨げるものではなく、複数回受講されている方もいる。</p> <p>複数回受講された方の人数は持ち合わせていない。</p> <p>○ 実地指導件数が 33 件で同数となっている理由は、市内に 33 事業所しかないということか。</p>

事務局	<p>→ 市内事業所は 33 事業所を超えている。実地指導は、3 年に 1 回を目安に実施しているため、指標は 33 事業所としている。</p> <p>○ 感染症対策について、今後クラスターが発生した場合、計画に記載されているような対応は難しいのではないかと</p>
事務局	<p>→ この度のコロナでは予想外のことが多かったが、この経験を踏まえて、例えば県では感染拡大防止に向けた感染対策について指導に入れるような専門看護師の派遣や、職員が罹患した場合の応援体制の仕組みの構築も検討されている。</p> <p>市独自で対策をとることが難しい点はあるが、県が行っている情報を市内事業所に伝達していき、万が一クラスター等が発生したとしても負担軽減に繋げることができるよう計画に記載している。</p>
委員	<p>○ 自分は施設運営に携わっており、身近な問題として、独居の方が増えていて、親族も遠方にいる人が多くなっている。また、家族関係が良くなく疎遠であったり、中には全く身寄りがない方もいる。</p> <p>元気な内はいいが、入院時や他の施設への住み替え時に問題となり、年に数件該当者がいる。今のところは対応できているが、いつもひやひやしているので、権利擁護推進事業について、計画に沿って進めていってほしい。</p> <p>○ 紙おむつ支給事業について、施設入所者で年金が非常に少ない方もいる。医療費や薬代もかかる中、状態が悪化して紙おむつの使用頻度が多くなると、本人の収入だけでは嗜好品を揃えてあげることも難しくなる。</p> <p>在宅の寝たきり高齢者等を介護している家族に支給する制度となっているが、在宅以外の施設も対象にすることはできないか。</p>
事務局	<p>→ 紙おむつ支給事業について、国の地域支援事業の制度に基づいて実施しているため、施設入所者への支給は難しい。</p> <p>○ 介護人材の確保を進めていただきたいと切に願っている。</p> <p>人材紹介会社を利用していないと職員を見つけることができず、求人情報誌に載せているが中々応募がない。求人情報誌に相談したとき、介護の求人に対して求職者が倍率 4 倍との資料をもらった。</p> <p>特に若い人が介護職についてくれるよう支援をお願いしたい。</p>

委員	<p>○ 山陽小野田市の状況は不明だが、県内他市ではケアマネジャーが足りていない状況もあると聞いている。今後高齢化が進んで、色々なサービスを受けたいけれどもケアマネジャーがいないため、適切なサービスを受けられない事態が生じることも考えられる。</p> <p>介護人材の確保をどのようにしていったらいいかを考える中、単に給料を上げたから人が増えるわけではないと思う。</p> <p>また、計画案 73 ページに記載されている小中学生を対象に介護の魅力発信をされていると思うが、正直それだけで介護職やケアマネジャーを目指そうという子どもがいるのか疑問がある。人材確保に繋がる取組を、自分たちも一緒に取り組んでいかないといけないと思う。</p> <p>○ 介護人材については、取組を進めても急増させることは難しいと思う。山陽小野田市ではA I を活用して業務効率化に取り組まれていると聞いている。介護業界でも書類作成などに手を取られがちな状況にあるため、事務的な面はA Iなどを活用し、人に関わるところを職員が対応していくよう、業務の工夫をしていかないといけないと考えている。</p>
委員	<p>○ 成年後見制度について、以前市役所に相談したときに法テラスを紹介されたが、ハードルが高く相談まですることができなかった。</p> <p>自分たちにとって成年後見制度や法テラスは遠い世界のように感じ、どんな人たちがいるんだろう、弁護士に相談するのはどうすればいいんだろうといった不安が非常に大きかったが、計画を読んでみると自分が望んでいたことが書いてあり、うれしく思ったので、これらの制度について、読むと、安心して、自分も気軽に考えることができる周知物があったらいいと思うので、期待している。</p> <p>○ 自分も老々介護の経験がある。</p> <p>最後まで自分が介護したいと考え、頑張っていたが、トイレの介助になると本人の抵抗が大きく、喧嘩になることが多くなった。そうした中で介護が続けられるか不安が大きくなっていったとき、デイサービスの職員が配慮してくれ、主治医から入院を勧められた。</p> <p>以前なら断ったと思うが、その時は本当に助かったと感じたので、第三者の言葉はタイミングが大切と思う。</p> <p>○ 子どもたちのことについて、家族全員が介護者になれるよ</p>

	<p>うに考えないといけない。</p> <p>例えば4年生、中1、高1は歩行の訓練ができる、5年生、中2、高2はお水を飲ませる介助ができる、最後はトイレの介助ができるようになれるよう、今いる子供たちに少しずつ段階的に介護の勉強ができるようになればいいと思う。</p> <p>簡単な介護でも自分で出来るようになれば、家族の介護に意見を言えるようになるし、介護の仕事始める子どもたちも出てくるのではないか。</p>
委員	<p>○ どの市でもそうだが、要介護1の人が多い。単身の世帯や高齢者の世帯も多い印象を受けた。</p> <p>通いの場の支援に入っているが、とても雰囲気良く、元々通いの場が始まる前から皆で集まっていたと言われる地域や、自分たちで支援に入らなくてもしっかりできている地域もあった。</p> <p>意見交換の場はあると思うが、実際に見てみることも大切と思う。通いの場同士の見学などを行い、通いの場が増えてほしい。</p> <p>○ 通いの場は女性が9割で、男性が少ない。男性が活躍できたり、役割が持てたりする通いの場があってもいいと思う。</p> <p>○ 単身世帯の方が、どの程度、外と関わりがあるか調査することも大切と思う。</p> <p>平常時を知らない気付かないこともあるため、調査に組み込んでもらえば、通いの場が単身世帯の方にどの程度効果があったか評価できると思う。</p>
副会長	<p>○ 令和5年度の実績根拠を教えてほしい。特に生きがい健康づくりの実績者数が増えている要因は何か。</p>
事務局	<p>→ 令和5年度の実績は10月時点の見込みとなる。生きがい健康づくり推進事業の実績が増えている要因として、コロナ禍で中止となっていた「はつらっシニアスポーツ大会」が再開できたことが要因となる。</p>
事務局	<p>○ 第二層協議体とRMOの関係について教えてほしい。</p> <p>→ 計画案46ページの今後の方針に、第二層協議体はRMOの流れと連携して取り組んでいくと記載している。</p> <p>RMOの進め方も地域ごとに、地域の特性を生かした進め方になると考えている。この中で、第二層協議体の役割とする部分を連携しながら取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>○ 民生委員が実施する高齢者実態把握調査の結果も計画に</p>

事務局	<p>反映されていると思うが、令和5年度から一人暮らし高齢者の対象年齢が65歳から70歳に引き上げられている。</p> <p>今後はこの年齢層の情報がなくなるが、どのような影響が出るか。</p> <p>→ 今まであったデータを継続して使えなくなることもあると思うが、他の調査も含めて様々なニーズを把握することでカバーしていきたいと考えている。</p>
会長	<p>○ 救命救急の医師から、コロナ禍では、医者がいない介護施設からのクラスター発生に伴う救急依頼も多かったが、施設の情報が入りできず苦労したと聞いている。</p> <p>医者がいない施設であっても通院等に利用する協力医療機関があると思うので、協力医療機関の医師と、どういった事態でどのような対応をするか、どのような記録を残しておくか救急依頼を受けた医師の判断に役立つかを相談して、ある程度でいいのでどこの施設でもマニュアルが整備されたらいいと思う。</p> <p>健康保険が使える施設と使えない施設の違いについて医師も誤解していることがある。保健所と協力する必要があると思うが、市で音頭を取って進めていくことを検討してほしい。</p>
《説明》	<p>「(2)今後のスケジュールについて」</p> <p>資料4について、事務局から説明を行った。</p>
3 その他 事務局	<p>委員の任期について、事務局から説明を行った。</p> <p>課長挨拶</p>
閉会	